

またもや郵政に問題が発生

ゆうちょ銀行口座被害問題をみる

ゆうちょ銀行は9月24日、提携する電子決済サービスを通じて口座から不正に引き出された被害が約380件、6千万円にもものぼっていると発表しました。

またの「と」に「呆れた」

と「職場の声

電子決済サービスは不正が容易にできることに不安を感じます。不正に引き出した者の摘発がただちに必要です。そして、不正に対して十分な対応をしていなかったゆうちょ銀行も問題です。

新聞によると、3年前に被害があったのに補償してなかった、補償せず公表もしていなかったという記事を読むと、その企業体質に驚きます。これを知った職場からは「トールの買収と売却で数千億円の損失、かんぽ生命の不正営業、そして今回のをみると、呆れる」の声があがっています。

ゆうちょ銀行の窓口に行くとき、過大なノルマもあってすぐに投資信託の説明がされます。「これからは貯蓄の時代から投資の時代。今後の物価をみると、投資していか

なければならなくなっている」と説明されます。確かにゼロ金利やマイナス金利を安倍政権がやってきたことから、金融関係は大変です。その営業もお客さんの貯蓄を守り、不正に引き出された場合にはすぐに補償してのことです。



職場からのメール

雨の日は困ります。外務で働く人は郵便物を濡らさないようにするのが一苦勞です。また、長靴が必要ですが、局からは貸与されません。以前は貸与されましたが、今はされません。だから人によっては大雨の日もズックでやっている人がいます。長靴は業務に必要です。制服同様貸与してほしい。

法令が守られる職場を

ゆうちょ銀行をはじめとして郵政グループは、利益追求を第一にしていることから様々な問題を起こしています。現場の声を取り入れ法令が守られる職場にするよう郵政ユニオンは強く求めておきます。

大坂選手の

勇気に学んだ

9月12日、大阪なおみ選手は全米オープン女子シングルスで2度目の優勝をなしとげました。大会では1回戦から決勝まで7人の黒人被害者の名前が入ったマスクを着けて出場し、「反差別」を世界にアピールしました。この勇気と行動に世界中の人が感動しました。

私たちもこの勇気と行動に学んで、人種差別をはじめとしてあらゆる「差別ノ」を大きくしていきましょう。